

令和4年(2022)壬寅 年頭のあいさつ

「春の来ない冬はない」

新潟県議会議員 尾身孝昭

年頭にあたり謹んで新春のお喜びを申し上げます。

この様に長期間にわたるとは誰が予想したでしょうか、先の見えない不安を抱えての二年間、県内では落ち着きを見せていた新型コロナウイルス感染症ですが十日町においては年末にクラスターが発生し、また全国的には新たなオミクロン株の市中感染拡大が心配されますので、感染対策を十分にしながら、経済再興に向けた積極的な取組みもして行かなければなりません。

一年遅れで開催された東京オリンピック 2020 は地元出身の服部勇馬選手の最後まで諦めない姿に感動と勇気をもらい、パラリンピックは樋口政幸選手の出場と合わせ、日本での開催により大会を身近に感じると共に元気につながるスポーツの新たな発見がそこにありました。

また、来月中国北京で開催される冬季オリンピックに十日町出身の男子は宮沢大志(ひろゆき)選手(ソチ五輪に続き2度目)と女子は児玉美希選手(初出場)が共にクロスカントリーに出場、国際公認吉田クロスカントリーコースを有する地元からの参加に市民の喜びと、やれば出来るという希望と期待は大きい。

「命と学びは平等」

県立十日町病院は旧病院棟の解体が終わり駐車場の一部が完成し、令和4年度は残りの駐車場の舗装・電気・消雪施設の整備と東側のキャノピー(仮の玄関口)を整備し、令和5年にはキャノピー

(玄関口の庇)並びに病院と県立十日町看護専門学校とをつなぐ雁木が完成します。

県立十日町看護専門学校は今年新入生の入学で全3学年が揃い、卒業を迎える三年生は愈々国家試験の年度となります。



十日町市立南中学校男女が県を代表して第29回全国中学校駅伝大会に出場し、女子は13位と健闘し、男子も31位でした。

第33回全国高校女子駅伝大会に県を代表して十日町高校女子が(19年ぶり3回目)(同校男子は県大会で3位入賞)出場し33位と健闘、中学生高校生の活躍で駅伝の十日町をアピール致しました。

全県で子供の数が高校入学時に今後9年間で3千人を超えて大きく減少する少子化の中、一昨年県教育委員会の高校再編計画で令和5年度に十日町高校松之山分校は募集停止と発表になりました。学校が存在している事が地域に与え

る影響は大きく、引き続きの存続運動と共に、以前（平成17年）にも募集停止が示された松高（十日町高校松之山分校）ですが地元をはじめ東京在住の皆様から物心両面でご尽力を頂き現在まで存続してきました。

子供の数が減少して行く中、魚沼エリア（学校区）全体で特色・魅力ある学校づくりと共に、子供たちが希望する学校に通える高校再編を地域と一体となって取組んで行かなければなりません。

十日町市津南町を含む魚沼全体の地域も例外ではなく、高校再編整備計画案に「生徒一人ひとりの夢を叶える特色ある学校づくりの推進」と書かれています。魚沼エリア全体の再編も含め、生徒の募集にあたり各高校が今後いかに特色のある学校にしていくかが大きな課題となります。

少子化は人手不足により企業経済にも大きな影響が出ており、早急に全国的な対策が求められます。

「天地（あめつち）の恵」

地球温暖化が進む一方で世界的に災害が発生し食糧危機が心配される昨今、主食である米の先の見えない不安を抱えての安定供給は国家の最も基本的な責務であり、中山間地小規模農家を抱える当地域に於いて国土の保全・災害防止など川上の集落存続維持と合わせ少子化対策と女性活躍など新しい農業政策に向け政治的配慮が重要になってきます。

「文化が経済を興す」

第八回大地の芸術祭はコロナ禍の中、一年遅れて今年の開催となりましたが、自然の里山を活かした地元の皆様のおもてなしが功を奏し、世界の作家による作品は多くの来訪者より高い評価を頂き、改めて観光は作られるものとの意識を強く致しました。

インバウンドも含め妻有地域の観光に期待は大きく、ゆっくり時間が過ぎる妻有の自然環境の中、ほくほく線（雪に強い飯山線と上越線六日町駅から湯沢駅）や高速交通網の活用により、東京から近い地域メリットを活かし、定着して来たテレワークやワーケーションなど新しい働き方による定住・関係人口の増加に向けた動きが進んで来るものと思われれます。

新潟県も来年度（令和4年4月）から現在の「県民生活・環境部」と「観光局」を組織改編し、2050年までの温室効果ガス排出量実質ゼロの実現を目指し、脱炭素化に向けた取組の促進を図るために新たに「環境局」を独立させ、また「観光文化スポーツ部」を設置し、文化・スポーツを資源と捉え、観光と一体的に進めることで交流人口の拡大を図ってまいります。

「玄関口の整備」

三県トライネット構想に始まり、新潟県（十日町市、津南町、魚沼市、南魚沼市、湯沢町）・長野県（栄村）・群馬県（みなかみ町）の三県にまたがる「雪

国観光圏」内、7市町村間のそれぞれの強みを活かし、広域的な政策課題の対応に向けて連携を更に強くして行く為にも玄関口の整備が重要であり、上沼道十日町道路は法線の決定を受けて今春センター杭打ちが予定され、長野県から津南町への国道117号新灰雨トンネル（仮称）は三年の後の供用を目指しており、国道353号十二峠新トンネルの開削に向けても活動を推進しております。

インバウンドも含め妻有観光に期待しており、流入人口、関係人口の拡大に向けても雪に強い地域への入口の道路鉄道の整備が急がれます。

柏崎刈羽原子力発電所からの避難路として、今後命をつなぐ幹線道路の柏崎から十日町インターまでを視野に入れた道路整備が急がれます。

【23年間に開通したトンネル】

- ① 平成8年 9月 国道403号渋海トンネル（川西）L=860m
- ② 平成10年 3月 一県道清津公園線清津公園トンネル（中里）L=179m
- ③ 平成12年 3月 国道253号吉田トンネル（吉田）L=980m
- ④ 平成14年11月 主十日町当間塩沢線 大沢山トンネル（水沢）L=2,698m
- ⑤ 平成20年 4月 一県真田高島線 真田トンネル（吉田）L=183m
- ⑥ 平成20年11月 国道353号高館トンネル（松之山）L=1,202m
- ⑦ 平成23年10月 国道117号大倉トンネル（津南）L=885m
- ⑧ 平成27年 7月 国道403号岩瀬トンネル（川西）L=279m
- ⑨ 平成29年11月 国道253号（上沼道）八箇峠トンネル（長里）L=2,840m
- ⑩ 平成30年12月 主十日町当間塩沢線 当間トンネル（水沢）L=487m
- ⑪ 令和3年 4月 工事入札 国道117号（津南町）新灰雨トンネル（仮称）L=827m（令和3年入札L=410m、令和4年入札L=417m）

雪に埋もれる小半年が春の恵みを育み、雪解け水が大地を潤し四季の恵みの当たり前があります。

本年も皆様にとりまして元気に楽しく輝く一年となりますことを御祈念申し上げます。（尾身孝昭）